



2024 苫小牧支援学校校内研究

ICTを活用した
生きる力を育む
授業実践を目指して
(2年次)

ICTを活用した授業づくりの実践を通して



12/21（金）本校で初めての公開授業研究会を開催することができました。遠方よりたくさんの先生方にお越しいただき、大変勉強になる御意見をいただきました。ありがとうございました。各学年で行われた授業後の研究協議では、3つの柱に沿って、成果中心に活発な意見が交流されました。協議シートを集約しましたので御覧ください。また、北海道教育庁ICT教育推進課の田野先生より御講話をいただき、「個別最適な学び」における児童生徒の学習状況の把握や、「協働的な学び」によってどのように学びを深めてほしいのかをイメージをして授業を進めることが大切であることなど、たくさんの学びを得ることができました。

特別支援教育におけるICT活用の視点から、児童生徒の「生きる力」を育むための授業づくりについて、大変意義のある意見交流の場になりました。ありがとうございました。

【交流・協議】「事後研究」 小学部1年生

○実態に応じた学びの方法

児童の状況によってアナログ教材とデジタル教材を使い分けしていた。

教師の言葉掛けに視線を動かしたり、音が鳴ることに合わせてまばたきしていた。

MTのテレビへの注目を促す支援のタイミングが良かった。

音を聞いて舌の形を変えるように口を動かしていた。

タブレットを使う事で、難しい楽器の演奏も簡単に操作する事ができていた。

少し子供たちがソワソワしてかな？というタイミングで身体表現が始まり、授業の構成が素晴らしかった。

Chrome music laboで自分の作成した音楽を聴いて面白さに気づいているような表情や反応が見られた。

バスにのっての、STとの連携が円滑で良かった。また、さりげないプロンプトも良かった。

自分のやりやすい作り方で音を作ることができていた。

児童の動きが多い授業だった。

声の大きさのような抽象的なことに対して、見える化して示していて良かった。

児童の状況に合わせたグループで呼んでいた。

大画面を見るのが難しいような児童もいた。

進行用のiPadに不備が出た時に備えて予備機があるというのでは。

器楽のグループ指導について、タイミングを伝える、伝えない等の狙いに応じた指導ができていた。

楽器を鳴らすタイミングを見て判断して、取り組む児童が多くて良かった。

○集団の中での協働

友達と協働して身体表現ができていた。

○目標の理解

自分の口の形を意識して動かすことができていた。

児童の声が大きくなっていた。

注目して楽器を鳴らすことができていた。

児童の手がかりを見て、理解して見通しを持って取り組んでいた。

目標はポイントをつたえていた。

テレビ画面を手がかりにハンドベルがならせた。

画面に注目していたので、やる事が全員に伝わっていた。

どういう姿が良いのか具体的な姿は？



○実態に応じた学びの方法

成果黄色

課題ピンク

個別に応じたletの使用が
でき、児童も使用することが
できていた

タブレットを見て作り進めることが難しい児童に対しては、教師の声掛けが中心になっていた。自分の力で作ることに焦点を当てると、今回の方法だと教師に促される活動となっていた

○目標の理

これまで2択の選択肢から選ぶことを続けてきた成果として、タブレット画面を見て選択肢を選ぶ児童がとて増えた。

アプリを使い分け、文を選択したり、自動音声で回答したりで、児童の実態に即してよかった。

自分の力で手順表を見て、制作する児童の姿を見ることができた

○集団の中での協働

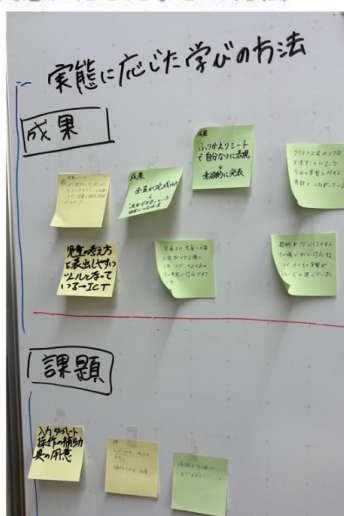


なかなか協働的な学びというのは難しい中、友達の良いと思う作品を選ばせたり、みんなの前で発表させたりと、機会を作っているだけでも良いと思いました。

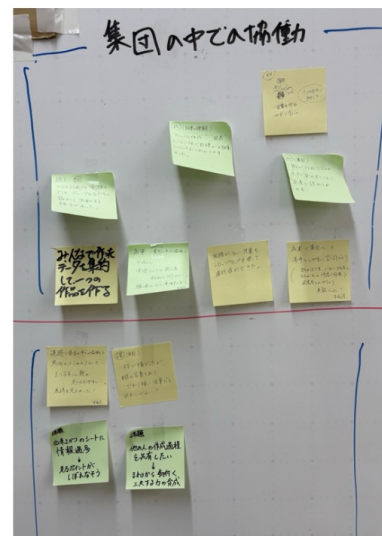
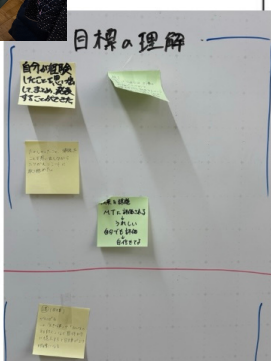
友達の作品を見て、作品のどの部分が好きなことを伝えることができていた。

頑張った事の発表で、アプリケーションを使ってテレビ画面に映した事で、子どもたちもそれに注目して他者の頑張りを認めることができてよかったと思う。

○実態に応じた学びの方法



○集団の中での協働



○実態に応じた学びの方法

動画で児童に提示したことで、即時で確認ができて良かった

実態に応じたICTの活用

fingerboardの活用

iPadを使ったことで自己評価がおこな
いやすくなった。

○目標の理解

ポイントとして提示したことで理解して取り
組んでいたと思う。

本時の課題を常に掲示

ポイントを押さえないとどうなるか提示したことでポイントへの意識がむきやすくなった

選択肢から選んで表出する事ができるようになってきて、その先、選択肢以外の表出に進む事が難しい。

タブレットのタップが難しい場合には、スイッチ教材を使用するなど検討する必要がある。

○集団の中での協働

動画を用いた共有

子ども達の調理の映像を皆で見ることで、友達の称賛をする場面が見られたら。

児童一人一人が役割を意識して活動していた。

発表の仕方など友達へ見本

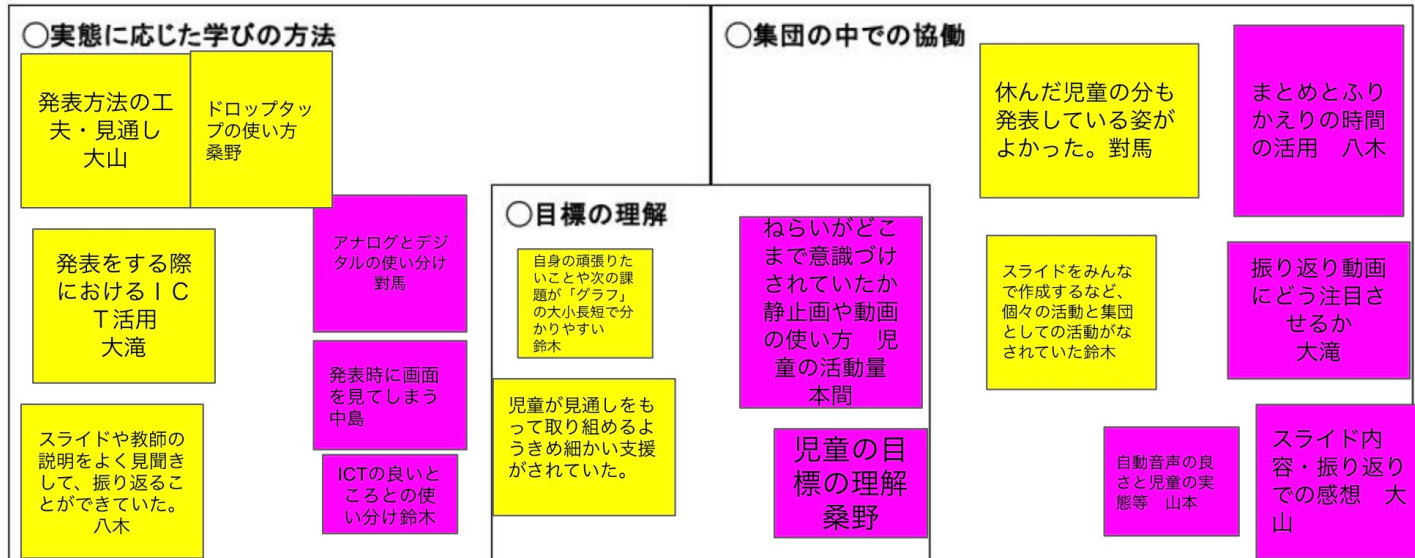
難しかったという評価の具体を聞きたかった

○成果

アナログ（その場で操作できる）とデジタル（選択しやすい 動画を提示）両方の良さ

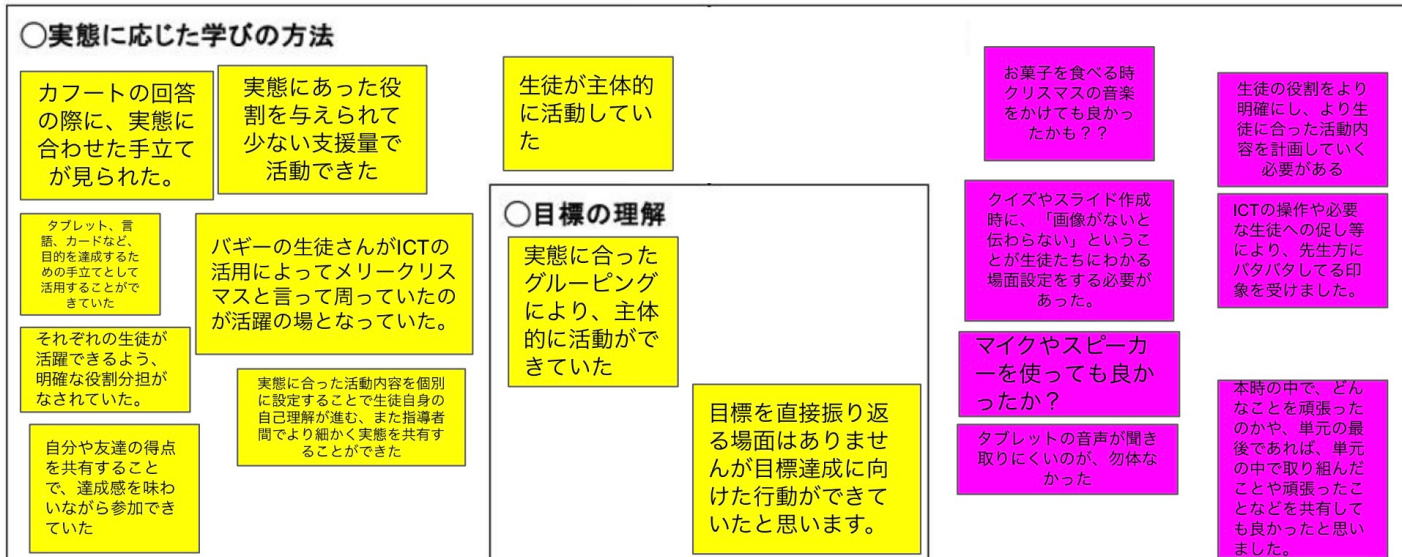
自己選択、自己決定の力を身につけるような取り組み





○成果

児童が見通しをもって取り組めるような単元となった授業の見通しを持つことで、意欲的に学習に取り組める内容となった実態に応じた発表方法の工夫がなされていた



○成果

ICTを使ったことで生徒が主体的に行動し、授業を作り上げていた。

先生方が生徒の実態把握をしていて個別最適な活動を設定していたことが主体的な活動につながった。



○目標の理解

- ①手話を覚え、曲や歌詞にあわせて表現することができる。
- ②友達が紹介する曲を鑑賞し、自分が思ったことや感じたことを伝えることができる。

目標を確認しながら進めていたので、目標を理解して取り組んでいた。

歌うだけでなく、手話を覚えて、自信をもって発表することができていた。

手話を覚えてきた

目標を意識して取り組んでいた

目的をもって鑑賞できるようになってきた

感想を言葉で伝えるだけでなく、身振りで伝えることができた

前のめりになり、興味を持って鑑賞していた

感想を伝えるとき具体的に言えるようになってきた

Aさん、3回の促しで意思表示

Hさん、感想を言い切る

Mさん、「ノリノリ」の言葉が自分から出てくる

自分の気持ちを自分で選んで表現することができていた。

感想の選択や発表内容が、鑑賞と結び付いていない生徒がまだいる

○集団の中での協働

友達の選択に興味をもっていた

他の友達を意識している様子がみられた

ほかの生徒の感想に興味をもって聞いていた

友達のまねをしなくなってきた

言葉だけでなく、身体表現での意思表示があり、それを認めてもらえる雰囲気ができている。

当てられることがわかっているので考えて見るようになった。

鑑賞をきっかけに、音楽の授業に対する興味関心が高くなった

食いつきがよい



○成果

○目標の理解
頑張るポイントを焦点化することで、生徒それぞれがそれを意識し、意欲的な活動につながられた。

○集団の中での協働
ICT活用により、鑑賞への興味、関心、期待感の高まりが向上。友達への意識向上、気持ちを表現することのよさへの実感を深めてきている。



○実態に応じた学びの方法

自分のやる事がわかり取り組んでいた

自分が気に入ったものを選択する際に指差しで選べる

○集団の中での協働

課題

課題

課題

課題

課題

ワークシートの共有

デジタルとアナログの使い分け

生徒自身が活用

ICTのより個に応じた活用方法

○目標の理解

ビデオを見ることで今までの振り返りが容易にでき、今日は発表する学習だと生徒が理解できていた

ワークシートもict化すると字が書けない生徒も取り組みやすい？

成果

ictを活用することで、発表することができていた



○成果

ICTを活用することで、選択しやすく、



研究報告の資料作成および発表ありがとうございました。
次号研究だよりVOL.6（最終号）は今年度のまとめになります。
また、3/21(金)研究日は今年度および2か年のまとめになります。よろしくお願いします。